REPORT 2016
2016年度活動報告書

表紙写真　負傷したクマタカを保護する職員

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Annual Report 2016　2017年9月30日発行

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地　公益財団法人 知床財団　Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115　E-mai linfo@shiretoko.or.jp　HP http://www.shiretoko.or.jp

発行　公益財団法人　知床財団　　発行日　2017年9月30日

REPORT 2016

2016年度活動報告書

世界自然遺産
知床を未来へ

皆様からのご支援が、
知床の自然保護活動を
支えています。

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Contents

2016年度年次報告書に寄せて
2016年度の決算概要
2016年度の賛助会員の状況
2016年度の寄附状況

【公益事業】普及啓発事業

環境教育
- 地域向け環境教育
- 地域向け講座・イベント
- 学習教材開発・運用
- 就業体験の受け入れ

広報、寄附・支援者の拡大推進
- 情報発信・サポーター拡大
- ボランティア活動の推進

【公益事業】調査研究・野生動物対策事業

ヒグマの調査・対策
- 知床国立公園における野生動物との共生推進業務
- 斜里町ヒグマ管理対策業務
- 羅臼町ヒグマ管理対策業務
- 幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務
- 知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務
- ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

エゾシカの調査・対策
- エゾシカ個体数調整業務
- エゾシカ個体群の動態に関する調査業務
- エゾシカ航空カウント調査業務
- エゾシカの採食圧に対する植生への影響調査業務
- ルシャ地区エゾシカ季節移動等調査業務

会議運営
- 科学委員会運営業務

その他
- 斜里町自然環境対策業務
- 羅臼町自然環境対策業務
- 希少鳥類などの長期モニタリング
- 海生哺乳類のモニタリング
- 水域における生物群集モニタリング
- 知床GISデータベースの作成
- 学術的な交流と成果公表
- JBN業務

【公益事業】国立公園管理事業

施設の管理・運営
- 知床自然センター
- 知床自然教育研修所
- 羅臼ビジターセンター
- 羅臼研究支援センター
- 知床五湖園地
- ルサフィールドハウス

知床国立公園利用の適正化
- カムイワッカ地区の運営業務
- 知床エコツーリズム総合推進事業
- ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

【公益事業】森林再生系事業

しれとこ100平方メートル運動
- しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務
- しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査業務

【第2期ダイキン工業株式会社寄附事業】
- 多様性に富むしれとこの森を復元する事業
- 世界遺産の価値を守り、伝える事業

【収益事業】
- 販売・有償貸し出し業務
- 研修・講演・視察対応業務

【法人会計】
- 財団法人管理運営事業

【受託事業一覧】

【組織概要】

本文中にあるマークは、寄附金・賛助会費によって実施している事業であることを示しています。

受託している事業の「受託先」と「事業名」は49ページに一覧を掲載しています。

知床半島マップ

知床自然センター
〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地
TEL0152-24-2114 FAX0152-24-2115
E-mail info@shiretoko.or.jp
http://center.shiretoko.or.jp/

羅臼ビジターセンター
〒086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町6-27
TEL0153-87-2828 FAX0153-87-2876
http://rausu-vc.jp/

■知床財団の使命

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、
世界遺産知床の自然を守り、より良い形で次世代に引き継いでいきます。
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

Annual Report 2016

2016年度年次報告書に寄せて

公益財団法人　知床財団　理事長　村田良介

2016年度は、度重なる台風通過による道路の通行止めや施設の臨時休館など、悪天候に翻弄された1年でした。

野生生物管理に関わる業務の中で、冬の主要業務となっている遺産地域内外でのエゾシカ個体数調整業務は、捕獲実施地域では植生の回復が認められるなど一定の効果が見られる一方で、年々捕獲は困難になりつつあり、新たな局面を迎えています。

ヒグマについては、知床半島におけるヒグマ管理の指針となる知床半島ヒグマ管理計画の策定に関わりました。新たな管理計画では、餌付けや至近距離での写真撮影など人側のヒグマに対する問題行動への対処が盛り込まれましたが、現場を担う立場から課題抽出や方策の提案などを行いました。

国立公園の利用に関しては、利用者を主な対象とした情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」の試験運用を開始しました。国立公園内の施設、観光船、遊歩道の運用状況等を一度にすべて確認することが可能で、日英2か国語で情報を提供することで、増加する外国人旅行者へも対応しました。

施設運営では、われわれの拠点の一つである知床自然センターが4月にリニューアルオープンしました。情報や必要装備の提供など国立公園利用の拠点としての機能と、休息くつろぎの場としての滞留機能の強化を目指し、レクチャー提供や展示等ソフト面の充実もリニューアルに合わせて進めました。また映像館では既存のオリジナル作品「四季・知床」に加え、BBC　earth制作配給作品を上映するなど新たな取り組みにもチャレンジしました。

2016年度も多くの個人、企業の皆さんからご支援をいただきました。特に地元斜里町、羅臼町の企業・個人の方から多くのご寄附をいただいたことは、我々にとって大変励みになることでした。知床財団は世界自然遺産・知床の自然を保全し、多くの方にその魅力を伝えるべく、これからも努力してまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

村田　良介　Ryousuke Murata

石川県小松市に生まれ、愛知県で育つ。1980年から斜里町教育委員会で社会教育主事や知床博物館学芸員として勤務。02年から環境保全課で「しれとこ100平方メートル運動」、世界自然遺産登録、知床五湖の利用調整地区制度導入等を担当。総務環境部長を経て11年に教育長に就任し、現在2期目。プライベートでも登山や山スキー、沢登り、カヌーで知床を駆け巡り、自然や歴史の魅力を発信している。

［歴代理事長及び任期］

藤重千秋　（1988年9月23日～1997年9月23日）
法量　武　（1997年9月24日～2003年3月31日）
森　信也　（2003年4月1日～2009年3月31日）
関根郁雄　（2009年4月1日～2016年6月11日）
村田良介　（2016年6月11日～）

2016年度の決算概要

2016年度の総事業費は、2億9千646万円

知床財団の事業費は「独自事業」、「斜里町・羅臼町委託事業」、「その他委託／請負事業」の大きく3つに分類されます。中でも、独自事業は賛助会費や寄附金が重要な財源となっています。賛助会員をはじめとする多くの方々の継続的なご支援により、2016年度は全56事業を行いました。

1. 独自事業

（事業数27 事業費4千732万円）

賛助会費や寄附金の他、知床自然センター及び羅臼ビジターセンターでの販売物収入が主な財源となっています。

2. 斜里町・羅臼町委託事業

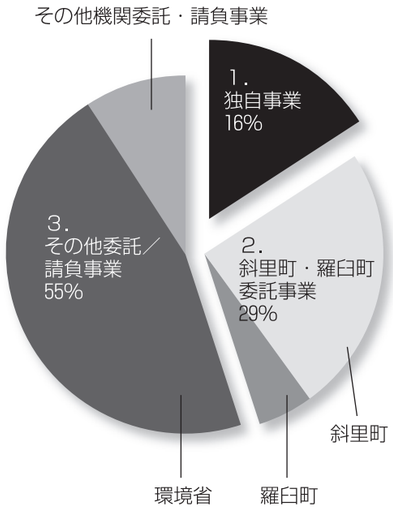
（事業数9 事業費8千663万円）

斜里町からは、知床自然センターや知床自然教育研修所などの指定管理業務やしれとこ100平方メートル運動の現地業務、広告宣伝業務などを受託し、羅臼町からは羅臼ビジターセンターの運営業務を受託しました。また両町からヒグマ管理対策業務、自然環境保護管理対策業務をそれぞれ受託しました。

3. その他委託／請負事業

（事業数20 事業費1億6千254万円）

環境省や林野庁、その他機関から各種業務を受託しました。



2016年度の決算報告

科目	金額
Ⅰ 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1)経常収益	
基本財産運用益	11,280
事業費収益	249,170,392
寄附金	16,130,291
普及研修収益	24,360,346
その他の事業費収益	221,917
雑収益	6,596,563
経常収益計	296,490,789
(2)経常費用	
事業費	298,245,457
管理費	3,239,548
経常費用計	301,485,005
当期経常増減額	▲ 4,994,216

科目	金額
2. 経常外増減の部	
(1)経常外収益	
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	▲ 4,994,216
一般正味財産期首残高	85,168,367
一般正味財産期末残高	80,174,151
Ⅱ 指定正味財産増減の部	
受取指定寄附金	8,100,000
一般正味財産への振替額	▲ 8,050,000
当期指定正味財産増減額	50,000
指定正味財産期首残高	48,900,000
指定正味財産期末残高	48,950,000
Ⅲ 正味財産期末残高	129,124,151

web http://www.shiretoko.or.jp/about/outline/teikan

2016年度の賛助会員の状況

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2016年度は新たに87名、4団体の皆様にご入会いただきました。皆様の温かいご支援に対しまして心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

なお、知床財団への会費は、所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となります。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

URL http://www.shiretoko.or.jp/supporter/zei/

（1）2016年度の会員数

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別年会員
663名	1,063名	43団体	8団体

（2）新規入会

個人年会員75名、個人終身会員12名、法人年会員3団体、法人特別年会員1団体の入会がありました。私たちの活動をご支援いただき、深く感謝申し上げます。

（以下、敬称略）

法人年会員	所在地
株式会社 ふれあい	北海道
オフィスぐり	北海道
エース株式会社	東京都

法人特別年会員	所在地
有限会社 アウトバック	岩手県

2016年度の賛助会員の状況

（3）法人特別年会員（入会順）

法人名	所在地
商船三井フェリー株式会社	東京都
光和メディカルクリニック ヘルスケアセンター	東京都
ナチュラル株式会社	福岡県
富士化学工業株式会社	北海道
株式会社 四ツ葉トレイド	福岡県
株式会社 キタムラ	神奈川県
株式会社 プリズム	北海道
【新】有限会社 アウトバック	岩手県

※【新】は2016年度の新規入会法人

（4）法人会員一覧（入会順）

法人名	所在地
株式会社 知床グランドホテル	北海道
オリジナル設計株式会社	北海道
株式会社 ユートピア知床	北海道
株式会社 須田製版 釧路支店	北海道
知床オプショナルツアーズＳＯＴ！	北海道
有限会社 みさき水産	北海道
有限会社 赤岩水産	北海道
羅臼漁業協同組合	北海道
ウトロ漁業協同組合	北海道
オコツク漁業生産組合	北海道
株式会社 辻中商店	北海道
有限会社 木切別漁業	北海道
峯浜水産有限会社	北海道
有限会社 知床ネイチャークルーズ	北海道
有限会社 らうす第一ホテル	北海道
株式会社 秀岳荘	北海道
株式会社 フェニックス	東京都
小川建設株式会社	北海道
株式会社 大石アンドアソシエイツ	東京都
株式会社 スタンフット	東京都
ピックス株式会社	北海道
田島公認会計士事務所	東京都

法人名	所在地
サージミヤワキ株式会社 札幌営業所	北海道
株式会社 小柳中央堂	北海道
知床観光協会 会長 赤木立太郎	東京都
小野建設工業株式会社	北海道
有限会社 丸大阿部商店	北海道
株式会社 ケミクル	北海道
シティ環境株式会社	北海道
知床ガイド協議会	北海道
ＣＳＥＧ株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	北海道
羅臼石油株式会社	北海道
医療法人社団鶴翔会 つるい整形外科	東京都
土橋工業株式会社	北海道
株式会社 丸七高橋組	北海道
有限会社 藤田電工	北海道
有限会社 小林配管工業所	北海道
株式会社 あらい	福岡県
安田商事株式会社	北海道
【新】株式会社 ふれあい	北海道
【新】オフィスぐり	北海道
【新】エース株式会社	東京都

※【新】は2016年度の新規入会法人

2016年度の寄附状況

一般寄附としてお寄せいただいた件数は66件、総額2,137,612円にのぼりました。内、個人の方からは59件、法人からは7件でした。寄附の用途を特定する指定寄附としてお寄せいただいた件数は7件（すべて法人）、総額8,100,000円のご寄附をいただきました。ご支援いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

（1）一般寄附をいただいた法人

法人名	金額(円)
株式会社 フェニックス	173,244
株式会社 北洋銀行 ほっくー基金	1,000,000
知床オプショナルツアーズＳＯＴ！	30,000
特定非営利活動法人ランナーズサポート北海道	45,000

法人名	金額(円)
有限会社 アウトバック	90,000
特定非営利活動法人北海道市民環境ネットワーク	2,000
有限会社 かねます漁業部	2,000

（2）指定寄附をいただいた法人

【ダイキン工業株式会社　寄附額：5,000,000円】

ダイキン工業株式会社様より、2016年から8年間で総額4千万円のご寄附をいただく協定を締結しました。協定に基づき以下2つの事業を実施しました。

・「多様性に富むしれとこの森を復元する」事業（P40参照）
・「世界遺産の価値を守り、伝える」事業（P42参照）

【株式会社 辻中商店　寄附額：500,000円】

株式会社辻中商店様より、羅臼町内知床国立公園のルサ園地の環境保全及び整備に対し、ご支援をいただきました。

【有限会社 アウトバック　寄附額：400,000円】

有限会社アウトバック様より、人とヒグマとの共生を進めるための事業に対し、ご支援をいただきました。

【株式会社 ＥＺＯＸ　寄附額：1,000,000円】

株式会社ＥＺＯＸ様より、知床世界自然遺産地域における環境保全のための普及啓発活動に対し、ご支援をいただきました。

【株式会社 北日本新聞社　寄附額：100,000円】

北日本新聞社様（「とやま食文化魅力再発見キャンペーン事務局）より、羅臼昆布を育む海の保全活動に対し、ご支援をいただきました。

【三菱ＵＦＪニコス株式会社（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟）　寄附額：100,000円】

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟様を通じて、三菱ＵＦＪニコス株式会社様より自然環境保護・保全に係る普及啓発に対し、ご支援をいただきました。

【斜里町内の企業（匿名）　寄附額：1,000,000円】

斜里町内の企業様より、知床世界自然遺産の環境保全とその普及啓発活動に対し、ご支援をいただきました。

公益事業 **普及啓発事業**

▲知床ウトロ学校でのクマ授業

▲知床キッズ「熊越えの滝スノーシュートレッキング」

▲羅臼でのシカ肉料理教室

環境教育

地域向け環境教育

斜里町

知床ウトロ学校全校児童・生徒を対象としたクマ授業を実施しました。

ウトロ学校の総合的な学習の時間では、遠足対応をはじめ、知床の観光や外来種、「しれとこ100平方メートル運動」、昆虫、野生動物へのエサやりやゴミの不法投棄をトピックとした授業を実施しました。9月には斜里中学校1年生を対象に、世界遺産学習の一環として「しれとこ100平方メートル運動」について現地説明を行いました。12月に朝日小学校6年生を対象に、総合的な学習の時間の一環として知床の自然保全と観光について授業を行いました。

羅臼町

羅臼町では、2015年度から幼小中高一貫教育のカリキュラムが確立されました。2016年度、ヒグマ授業は幼稚園と小学3年生、小学5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全児童・生徒を対象に各学校に出向き、計11回の授業を行いました。羅臼町連合町内会や昆布部会の方々へ向けたヒグマ対策に関する説明会をそれぞれ1回ずつ実施しました。

羅臼中学校2年生の総合的な学習の時間では、「ふるさと調べ学習」の講師として知床の生き物に関する授業を2回実施しました。

羅臼町公民館などと共に羅臼町内の小学生を対象にして実施している知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）は、5月から2月までの間に計10回の講座を企画しました。今年度で3年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様で、6月には羅臼から船に乗り知床岬へ出かけてゴミ拾い活動を行いました。7月には、ウトロのチャシコツ崎で浅瀬の生き物を学習しました。

▲環境学習でセイヨウオオマルハナバチを見つける生徒たち

地域向け講座、イベント

クマ端会議

知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、知床財団職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を開催しました。4回目を迎えた2016年度の会議では、一般住民の方でも比較的容易に導入、活用可能なヒグマ対策グッズとして簡易電気柵を持ち込み、実演を交えて紹介しました。

▲ウトロ住民とのクマ端会議の様子

住民講座 環境省/C1

地元住民を対象に知床世界自然遺産地域の保護管理や自然の魅力等を題材とした講座の企画・運営を行いました。斜里町で開催した2回の講座はいずれも流氷をテーマとし、1回目は北見工業大学の舘山一孝准教授をお招きし、「流氷を通じて学ぶ地球環境と地域防災」と題した講座を開催しました。2回目は、フィールドに出て流氷を学んでもらうことを目的とし、紋別海上保安部のご協力のもと宇登呂灯台に登って流氷観察を行いました。

羅臼町では、1回目の講座は同じく流氷をテーマとして舘山准教授に「流氷がもたらす恵みと災害」と題して羅臼町の基幹産業である漁業にちなんだ内容でお話しいただきました。2回目の講座は、知床で実施しているエゾシカの有害鳥獣捕獲（以下、有害捕獲）をテーマとして捕獲の目的や現状、成果をお話ししたのちにエゾシカの利活用を学ぶため、釧路市にある「Restaurant & Community Iomante」の舟﨑一馬シェフをお招きしてシカ肉料理教室を開催しました。

▲宇登呂灯台にて流氷を観察する参加者

▲トランクキットのヒグマ毛皮でレクチャーする職員

▲看板を修復するインターン

環境教育

学習教材開発・運用

2016年度、ヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸し出し実績は9件、2号機の貸し出し実績は3件となりました。貸し出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

2015年度新たに完成した海獣版のトランクキットは職員を中心に活用が始まりました。キットの中には、実物大のシャチを描いた大判の布やアザラシ類の毛皮、かつてアイヌの人々が使用していた回転式離頭銛の模型など、知床の海獣類に関する小物を詰め込んでいます。

2016年度ヒグマトランクキット貸し出し先一覧

所在地	法人名
北海道	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル厚岸
	東海大学 札幌 科学部
	上川郡上川町立上川中学校
	NPO法人占冠・村づくり観光協会
	NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト
	士別市立博物館
	特定非営利活動法人 かかわり教室
	東京農業大学 博物館情報学研究室
	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル砂川
	北海道教育大学 釧路校
	一般社団法人 大日本猟友会 斜里支部 斜里分会
東京都	東京都恩賜上野動物園

▲海獣トランクキット内の教材

就業体験の受け入れ

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。主に野生動物や自然環境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて10教育機関からのべ17名の学生を受け入れました。

▲ヒグマの糞に含まれていたシウリザクラの種を数えるインターン

受入先（夏期）	人数
北海道大学	1
日本大学	2
鳥取環境大学	1
帯広畜産大学	1
酪農学園大学	3
東海大学	2
日本獣医生命科学大学	1
東京環境工科専門学校	1

受入先（冬期）	人数
酪農学園大学	2
福井県立大学	1
日本大学	1
東京農業大学	1

知床財団だより▶

▲SEEDS を各宿泊施設に設置するための準備作業

広報、寄附・支援者の拡大推進

情報発信・サポーター拡大

会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報誌「SEEDS」を4回発行、会員の皆様や関係機関へ発送しました。

賛助会員向け会報誌「SEEDS」▶

地域向け情報発信

知床財団に対する理解と協力を得るために、地元住民や関係機関に向けて活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度から知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。2016年度は2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町5,050部、羅臼町2,000部）。

▲SEEDS の自然特集取材をする職員

一般向け情報発信

会報誌「SEEDS」を活用して、観光客を対象とした知床財団のPRや賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011年の夏から、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、「SEEDS」を町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。

協定先の旭川市旭山動物園の図書館には賛助会員募集のパンフレットや「SEEDS」のバックナンバーファイルが設置されており、知床財団活動のPR、賛助会員獲得に向けた広報にご協力いただいています。

ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を継続して行っています。前年度導入したSNS（Social Network Service）のひとつFacebookを今年度も広報媒体として活用しました。知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られるブログを都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容についても随時アップロードしました。

賛助会の運営

2016年度の新規の入会状況は、個人年会員75件（前年度99件）、個人終身会員12件（前年度11件）、法人年会員は3件（前年度9団体）、法人特別年会員は1件（前年度2団体）でした。個人年会員、法人年会員は前年度を下回ったものの、個人終身会員は、前年度を上回る結果となりました。

▲北海道キャンピングフェアでの知床財団ブース

▲羅臼のイベント「知床開き」での知床財団ブース

広報、寄附・支援者の拡大推進

寄附、賛助会員拡大推進

知床財団の活動を広く一般の方へPRし寄附拡大へとつなげるため、毎年札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに参加しました。また、羅臼町のイベント「知床開き」に出展し地元住民に対し知床財団が行なっている活動内容の普及に努めました。

会員サービスの一環として、賛助会費の自動引き落としシステムを2017年2月に導入しました。これは会員の方が指定の銀行口座またはクレジットカードの引き落とし口座から会費を毎年自動的に納入していただける制度です。

2016年度、個人寄附としてお寄せいただいた金額は795,368円となりました。また、法人8社から総額9,442,244円の寄附をいただきました。

知床自然センターの館内展示や知床財団ホームページでは、賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れました。

▲ご支援をいただいた法人の皆様の紹介展示

ボランティア活動の推進

2016年度末でのボランティア登録者数は192名、そのうちの47名の皆さんが「100平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼ビジターセンターを拠点にした展示物作成作業などに参加してくださいました。年齢層は10代から70代まで と幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は54日間、のべ参加人数は147.5人日となりました。

▲ボランティアの方による苗木の堀り採り

公益事業

調査研究・野生動物対策事業

▲魚の残滓管理用のヒグマ対策ゴミ箱を設置する職員

▲羅臼で行われているヒグマウォッチングクルーズの様子

ヒグマの調査・対策

知床国立公園における野生動物との共生推進業務 環境省/C2

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝など人の利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。2013年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、監視小屋周辺にカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等の対策を引き続き実施しました。また、キツネへの餌やりなど公園利用者の不適切な行為に対する各種指導や傷病鳥獣の保護収容を行いました。

▲林野庁等と合同で行った岩尾別温泉道路のロープ張り

斜里町ヒグマ管理対策業務 斜里町/A1

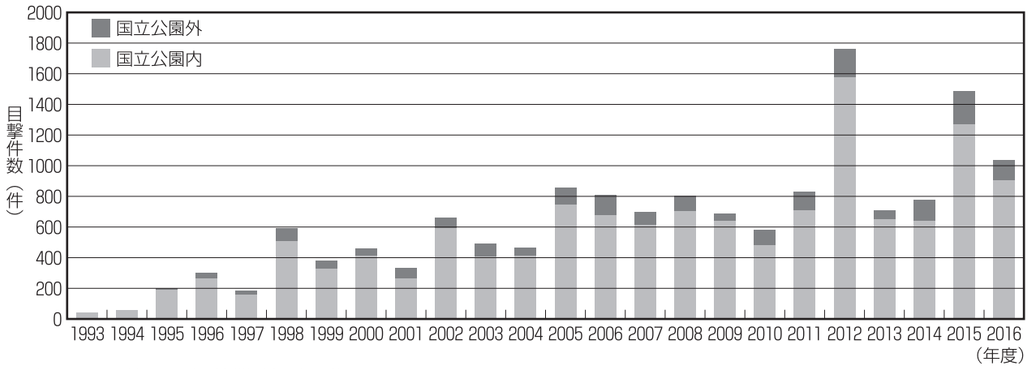
斜里町における2016年度のヒグマ目撃件数は1,035件、対策活動が733件で、近年では3番目に目撃件数が多い年でした。ヒグマによる人身事故は発生しませんでしたが、人慣れしたヒグマが車に前肢をかけた事例、釣り人の自転車がヒグマに壊された事例、釣り人の荷物が荒らされた事例など、人身事故につながりかねない危険事例は複数件発生しました。夏以降、ヒグマの出没は基本的に減少しましたが、幌別川の河口では釣り人とヒグマとのトラブルが多発したことから、緊急の立入禁止措置や行政関係者と釣り人の話し合いなどを経て、釣り人の自主的な釣り場管理が行われました。知床財団は釣った魚の残滓管理のためのヒグマ対策ゴミ箱の設置やその管理などで協力しました。斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は17頭でした。秋の林道沿いでの狩猟捕獲が6頭と比較的多かったことが特徴的でした。

▲自転車のサドルを壊すヒグマ

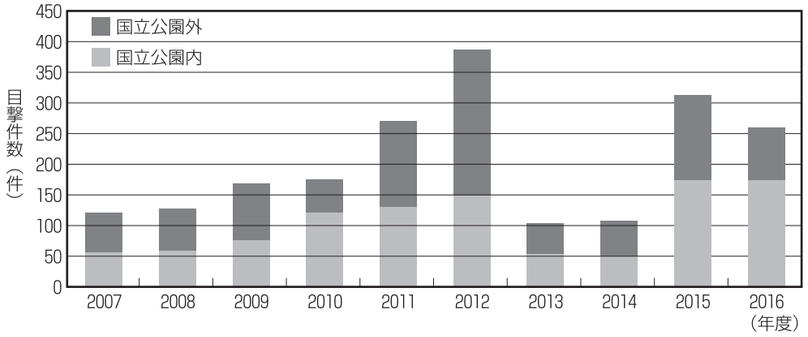
羅臼町ヒグマ管理対策業務 羅臼町/B1

羅臼町における2016年度のヒグマ目撃件数は260件、対策活動は138件で、いずれも7月に最多となりました。260件の目撃件数のうち106件は、定住者のいない知床岬を含む地区での目撃で、2014年から本格的に始まったヒグマ観察を目的とした小型船によるクルーズツアーからの報告がほとんどでした。また、有害捕獲頭数は7月に岬町で水産加工場の残滓を荒らしたオスの1頭のみでした。有害捕獲頭数の記録が残る1993年以降では、これまで最少だった1997年の2頭よりも少なく、最少記録を更新しました。

斜里町のヒグマ目撃件数（年度別）



羅臼町のヒグマ目撃件数（年度別）



▲囲いわなの中に入ったエゾシカ

▲シャープシューティングの様子

ヒグマの調査・対策

幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

2016年度は幌別ー岩尾別地区において、秋にドラム缶式わな1基によるヒグマの生体捕獲を試みましたが、捕獲に至りませんでした。また、外見による個体識別を確定させるため、ヒグマ2頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北海道大学獣医学部との共同事業）。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨21個体分（斜里17・羅臼1・標津2・清里1）の標本を作製しました。歯の薄切標本による年齢査定も25個体分について実施しました。

▲ヒグマの頭骨標本

知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず対策に苦慮していました。そこでヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。2016年度は、冬の間撤去していた電気柵を5月に再設置しました。ヒグマは電気柵を忌避した一方で、柵のない海側に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が再び観察されました。

ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。また自由に野外を歩き回っている4頭のメス成獣を麻酔銃で生体捕獲し、GPS首輪の再装着、交換及び回収を実施しました。2016年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ18頭には、ルシャ生まれの個体は含まれていませんでした（北海道大学獣医学部・知床博物館との共同事業）。

エゾシカの調査・対策

エゾシカ個体数調整業務 環境省/C3, C4 林野庁/D1, D2

2016年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを10基、箱わなを7基、くくりわなを約13個稼働させ、流し猟式シャープシューティング（道路を閉鎖しての銃捕獲）を1ヶ所、遠距離狙撃等を斜里町内の国有林3ヶ所で行ったほか、羅臼町側で船を使った捕獲を半島先端寄りで行い、厳冬期にはヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。3月末までに囲いわなで115頭（岩尾別大型仕切柵：17頭、幌別川河口：19頭、ウトロ東：19頭、ウトロキャンプ場：10頭、フンベ：3頭、弁財崎：13頭、オシンコシン①：11頭、オシンコシン②：15頭、マコイ沢：1頭、ルサ：7頭）、箱わなで37頭（岩尾別川河口：18頭、幌別：17頭、金山川：2頭）、くくりわなで11頭（ルサ）、シャープシューティングで49頭（春 ルサー相泊：23頭、冬 岩尾別川河口：26頭）、モバイルカリングで6頭（オペケプ川）、狙撃で6頭（遠音別川）、船舶捕獲で38頭（相泊以北）、さらに知床岬で41頭(春7頭、冬34頭)、計303頭を捕獲しました。なお、羅臼町側の国立公園内での捕獲は、8月の台風による土砂崩れの影響でシャープシューティングが実施できないなど、前年度までとは大幅な方針変更を余儀なくされました。

▲箱わな

▲くくりわな

▲知床岬での巻狩り

▲船舶捕獲

▲エゾシカに GPS 首輪を装着する職員

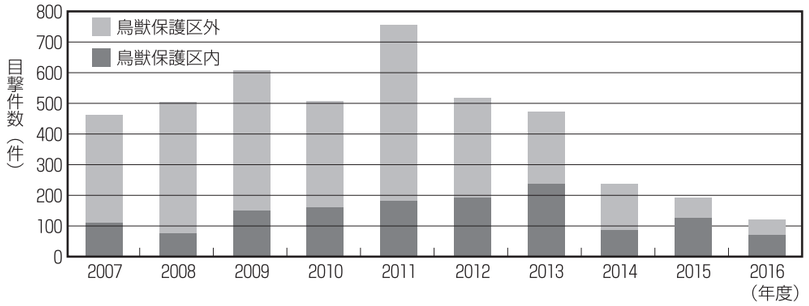
▲上空から見た知床岬で越冬中のエゾシカ

エゾシカの調査・対策

エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

知床半島内の主要なエゾシカ越冬地の一つとなっている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計4回実施しました。調査日はいずれも可猟期間外に設定しました。シカの確認頭数は3月下旬が最多となり、121頭でした。最大確認頭数は2013年度が472頭、2014年度が238頭、前年度が227頭だったため、同地区のシカは徐々に減少しています。また、2014年度の冬にGPSイリジウム首輪を装着し、前年度のうちに首輪の電池が切れてしまったメス成獣2頭の再捕獲・首輪回収を試みました。それぞれ放獣地点周辺で生存していることは、直接目撃や自動撮影カメラで確認できました。しかし冬期に囲いわなや箱わなの近くまでは来ていたものの、わな内に入らず、前年度に引き続き再捕獲できませんでした。

真鯉地区の国道沿い(約 8.5km 区間)でカウントされたエゾシカの数



エゾシカ航空カウント調査業務 環境省/C5

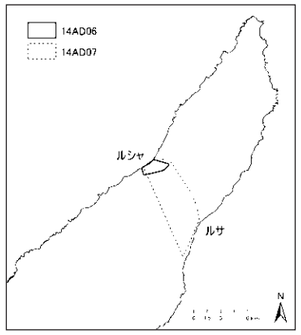
知床半島の世界遺産地域内限定でエゾシカの航空カウント調査を実施しました。調査区10区画で139群747頭のエゾシカを発見しました。エゾシカの発見頭数は、全体的に横ばいまたは減少傾向でした。また航空カウントの見落とし率を算出するため、幌別地区（知床自然センター付近）の針葉樹の多い場所で森林内のエゾシカの追い出しカウントを、地元の行政やガイドさんにもご参加いただいて実施しました。針葉樹の遮蔽効果は大きく、2016年度の上記の場所での航空カウントにおける見落とし率は84.4%でした。

エゾシカの採食圧に対する植生への影響調査業務 株式会社さっぽろ自然調査館/F1

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別ー岩尾別地区及びルサー相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。知床財団では、知床岬地区およびルシャ地区の現地調査をサポートしました。

ルシャ地区エゾシカ季節移動等調査業務 環境省/C6

陸からのアクセスができない5月のルシャ地区に船で上陸し、麻酔銃で4頭のメスジカを捕獲後、GPS首輪を装着しました。2014年度にGPS首輪を装着した10頭と合わせた計14頭のメスジカについて、行動範囲等を調査しました。特定の1頭だけが、2015年度の7月下旬と同様、2016年度は6月に羅臼側へ一時的に移動しました。しかし、基本的に14頭すべてが、1年中ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。



▲エゾシカの行動範囲データ

▲知床国立公園内に投棄された塩鮭

会議運営

科学委員会運営業務 環境省/C7, C8, C9

知床世界自然遺産地域を適切に管理するため、科学委員会やその下部組織の会議によって、科学的な見地からの行政への助言が行われています。知床財団は科学委員会本体会議（8月4日 羅臼町、2月21日 札幌市）とエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議（6月28日、10月7日、1月12日　すべて釧路市）の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレター作成などを担いました。また、2016年度は斜里、羅臼及び標津の3町を対象としている「知床半島ヒグマ保護管理方針」の更新に向けた検討年度にあたるため、各種データの収集やとりまとめを行い、これまでの方針の評価や次期管理計画を検討・策定する3回の会議（6月10日、9月15日、1月19日 すべて札幌市）や各町での住民説明会の運営を行いました。さらに、知床世界自然遺産地域を含む日露隣接地域全体の自然環境や生態系の保全に資することを目的として開催されている日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進委員会会議（8月3日 羅臼町、2月22日 札幌市）についても、同様に運営事務局を担いました。

▲科学委員会の様子

その他

斜里町自然環境対策業務 斜里町/A2

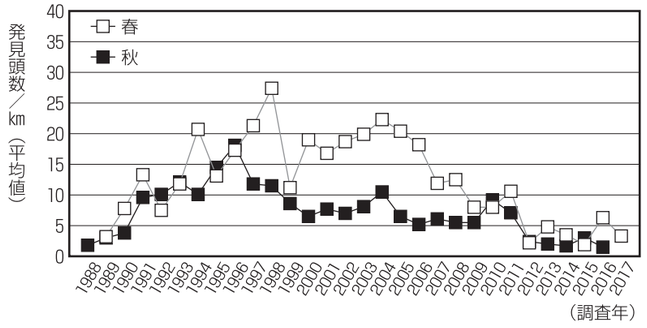
斜里町内においてゴミの不法投棄対応は18件あり、多くは食品の包装や容器などでした。9月には古い塩鮭が不法投棄されていた事例が国立公園の内外両方で各1件ありました。キツネなど野生動物への餌やり行為は、直接職員が目撃して公園内で利用者指導を行った事例だけでも2件あり、依然として継続的な普及啓発が必要な状況です。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお、前年度に引き続き、2016年度もフンベ川河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が斜里町からの依頼を受けた道路管理者により設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は32件、傷病鳥獣の対応は20件でした。

幌別台地および岩尾別台地の道路沿いでは、春期と秋期に各5日間集中で、エゾシカのライトカウント調査を実施しました。

▲負傷したクマタカを保護する職員

岩尾別台地におけるエゾシカライトカウント調査の結果



▲保護したオジロワシを放鳥する様子

▲人家の屋根の上に営巣するオオセグロカモメ

▲ドローンにより撮影されたトドの群れ

その他

羅臼町自然環境対策業務 羅臼町/B2

羅臼町内各地区で実施した計51回のパトロールでは、不法投棄の確認及び利用者への指導等の対応を行ったものが10件ありました。

傷病鳥獣の対応は29件ありました。そのうちシカ除けのために設置された漁網に絡まって動けなくなったエゾシカなどの対応は5件でした。希少鳥獣への対応はオジロワシ3件とクマタカ1件の計4件ありました。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も継続的に行っており、5月に岬町でセイヨウオオマルハナバチの女王1頭を捕獲したほか、知床岬赤岩地区では10月に自動撮影カメラにアライグマ1頭が撮影されたという衝撃的な情報が得られました。エゾシカのライトカウント調査は春期に5回行いました。秋期にも実施予定でしたが、8月から9月にかけての豪雨によるがけ崩れで調査区間の主要エリアが通行止めとなったため、実施できませんでした。

▲漁網に絡まり動けなくなったエゾシカ

希少鳥類などの長期モニタリング

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシモニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営をしました。知床財団が調査担当となっている営巣木については、今年度の営巣の有無や雛数等について情報収集しました。また、羅臼町内で糞や騒音等が問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査を6～7月に10回行ったほか、観光船による餌やりという課題を抱える海ワシ類については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、観光客の満足度等について調べ、関係団体等に結果報告しました。

海生哺乳類のモニタリング

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのカウント調査を継続しました。2016年度冬期の最大確認頭数は、2017年1月18日の105頭でした。ドローン（無人航空機）による遊泳群の上空からの撮影も前年度に引き続き実施し、定点からのカウント値の精度確認や、群れに含まれている標識個体の確認に威力を発揮しました。今年度の冬期に確認した標識個体は計12頭で、すべて中部千島で出生した個体でした。また12頭のうち7頭（58%）は、前年度以前にも知床で確認された個体でした。

▲羅臼沿岸で泳ぐトド

水域における生物群集モニタリング

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、前年度に引き続き各種生物を収集しました。また、2012年に国後島と択捉島で採集した魚類と貝類についても同定を進めました。

知床 GIS データベースの作成

知床半島の自然情報、位置情報をキーとしてあらゆるデータを取りまとめるGISデータベース（ジオインフォしれとこ）の構築を進めています。今年度は、100平方メートル運動地の植生図、シカの生息密度など各業務で作成しているデータを公開するためのテストサイトを作成し、データ公開の準備を進めました。

▲知床ゼミ「蜃気楼のすべて」の様子

▲リニューアルした JBN ホームページ

その他

学術的な交流と成果発表

学会発表

○白根ゆり（北大），山中正実，中西将尚，石名坂豪，能勢峰，葛西真輔，白柳正隆，増田泰（知床財団），釣賀一二三，間野勉，藤本靖，長田雅裕，佐鹿万里子，坪田敏男，下鶴倫人　知床半島におけるヒグマの移動様式の解明．日本哺乳類学会　2016年度大会　筑波大学（つくば）　2016年9月

○寺山元（知床財団）　知床における自立経営型の野生動物管理．「野生生物と社会」学会　第22回大会．東京農工大学（府中市）　2016年11月

学会ポスター発表

○邑上亮真（農工大），能勢峰，石名坂豪，増田泰，中西将尚（知床財団），岡田秀明（斜里町役場），山中正実（知床博物館），梶光一（農工大）．ニホンジカ（Cervus nippon）の個体群変動を示す生態的指標としての体重・体サイズの評価．日本生態学会　2017年3月

学術誌

○Erika Abe, Kazue Ohishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Kei Fujii, Tadashi Maruyama（2017）
Serologic evidence of *Brucella* infection in pinnipeds along the coast of Hokkaido, the northernmost main island of Japan.
Microbiology and Immunology 61: 114–122.

紀要・報告書・商業誌

○船坂徳子，石名坂豪（2017）　海棲哺乳類の保全・管理のための調査・解析手法【7】繁殖．海洋と生物 39(2): 163–174.

シンポジウム等での発表

○知床財団羅臼地区事業係（発表：小川洋平），羅臼町役場　羅臼町における電気柵設置とその効果について．ヒグマフォーラム2016．遠軽町　2016年10月

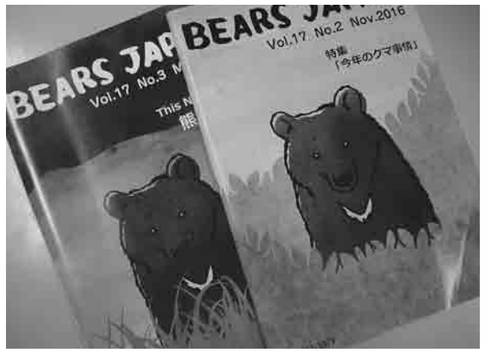
知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計9回開催しました。知床財団職員や関係機関等を含め、のべ180名ほどの参加がありました。

JBN 業務　JBN/F2

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBNホームページの運営管理を行いました。年3回発行のJBN会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ783件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計75部を販売しました。ホームページについては内容の見直しを行い、全面的なリニューアル作業を実施するとともに、日常的な掲載内容の更新をJBN事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っているNGO組織です。近年は、クマによる人身事故対策や絶滅の恐れのある四国のツキノワグマ個体群の保全活動に精力的に取り組んでいます。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ360名で構成されています。



▲JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」

公益事業 国立公園管理事業

▲職員によるスタッフトーク

▲柱展示をメンテナンスする職員

施設の管理・運営

知床自然センター

施設の管理と運営 斜里町/A3

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収等の業務を行いました。2016年度の知床自然センター入館者数は184,991名で、前年度比128%となりました。リニューアルの効果もあり、過去5年間で最高の入館者数となっています。また、映像ホールの入館者数は14,203名（前年度比113%）であり、改修工事により下半期が閉館していた前年度は上回っているものの、長期的な減少傾向には歯止めがかかっていません。

ビジター向けインフォメーション・環境教育等業務 斜里町/A3

知床自然センターは約半年間にわたる全面改修工事を経て、2016年4月20日にリニューアルオープンを迎えました。リニューアルにあたっては「フィールドを知り、楽しむための国際ビジターセンター」をコンセプトに、国立公園のフィールドを楽しむための「拠点機能」とゆっくりと休憩し楽しめる「滞留機能」の強化を目標としました。

利用者サービス・情報提供・館内展示・映像ホール・レクチャー等の運用等について、施設の改修と併せたサービス面の刷新に向けた取り組みを斜里町と連携を密にしながら実施しました。

1）インフォメーションカウンターの新規立ち上げ

フィールド情報の受発信と外国人利用者への対応を核としたインフォメーション機能の充実を図りました。リアルタイム情報の受発信強化のため、twitter等のSNSの運用を継続したほか、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道等の開閉・運用等の状況が一覧できるポータルサイト「知床情報玉手箱」を運用し、館内サイネージに取り入れました。また、夏期繁忙期にはシャトルバスやスカイバスなどの公共交通機関の発券サービスを行い、チケットの発券と共に情報提供を行う仕組み作りを構築しました。

2）レクチャールームの活用と普及啓発事業の実施

新設されたレクチャールームにおいて、定時レクチャーを通年行いました。ヒグマの活動が活発となる上半期においては、「日刊・知床ヒグマ情報」を毎日実施し、最新のヒグマ情報や安全対策を伝える取り組みを行い、総計1,263名の参加がありました。また、知床の自然の魅力や知床財団の取り組みを分かりやすく伝える「知床財団スタッフトーク！」は通年で毎日3回設定し、3,322名の参加がありました。実施時には、併せて活動のＰＲも行い、136,758円の募金をいただきました。

知床財団の活動を伝え、支援を広げる活動として、活動紹介コーナーを拡充し、支援企業の掲示等を新たに追加しました。募金箱を設置し、2016年度は総計201,543円の募金をいただきました。

3）映像ホール運用の抜本的見直し

映像ホールにおいては、上映時間や入館管理システムなどの運用体制の見直しに着手しました。上映プログラムについてはオリジナル作品「四季・知床」に加え、初めて外部配給作品を導入し、特別上映プログラムとして1日2回程度の上映を通年で行いました。特別上映作品であるBBC　earth制作の「小さな世界はワンダーランド」は、総計2,464名の視聴があり、全体実績の15%を占めています。

また、スクリーンの張り替えが行われ、多様なコンテンツの上映が可能となったことから、大型スクリーンを活用した映像イベントの実施など、映像ホールの多目的利用に向けた取り組みが始まりました。

▲リニューアルしたインフォメーションカウンター

▲知床自然センターオープニングフェスでのアウトドアグッズ販売

▲リニューアルした知床自然センターのエントランス

▲映像ホールで実施した写真家・石川直樹氏のトークイベント

施設の管理・運営

4）常設展示・企画展示室の立ち上げと運用

館内展示について、従来の展示物の整理を行い、テーマや導線に沿った再配置や外国語表記に取り組みました。柱展示は従前通りの取り組みを継続しています。新設された企画展示室においては、2回の企画展示を実施したほか、ミニギャラリーでの写真展も継続し、5回の写真展を開催しました。いずれも、外部機関や関係者との連携により企画実施しており、幅広いテーマを取り扱っています。

▲企画展示「知られざる海の鳥たち」

5）広報・記念イベントの実施

リニューアルを広く広報するため、リーフレットを新規に制作しました。知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続しました。「知床自然センターだより」はウトロの宿泊施設および観光関係施設（全27施設）に配布しており、宿泊者への情報提供に役立てていただいています。リニューアル記念として、2016年度は3回のイベントを行いました。地元住民を対象としたオープン前の内覧会では、新規映像プログラムの試写やフードコートでの新メニュー無料提供等を行い、200名を超える来場者がありました。5月には「知床自然センターオープニングフェス」と題し、知床でのアウトドア活動をテーマとしたイベントを2日間に渡り実施し、アウトドア映画祭の上映をメインに、ゲストトーク、アウトドアグッズの販売、フードコートでの飲食提供等を行い、221名の来場者を集めています。また秋には写真家の石川直樹氏をお招きし、大型映像ホールを活用した写真トークイベントを行いました。

▲地域向けの内覧会で行われた餅まき

知床自然教育研修所 斜里町/A3

知床自然教育研修所の維持管理を行いました。2016年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に1,219人泊の利用があり、482,400円を施設利用料金として徴収しました。

羅臼ビジターセンター

施設の管理と運営 羅臼町/B3 環境省/C10

羅臼ビジターセンターの来館者数は41,283名で、過去最多の来館者があった前年度比は99%となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を5回、特別展示を6回、例年どおり開催しました。

このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

▲職員による知床連山の巡視

▲冬の観察会の様子

▲混雑する知床五湖フィールドハウス館内

▲海外からの観光客の対応をする職員

施設の管理・運営

ビジター向けインフォメーション・環境教育等業務

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥行きのある自然解説を行うため、ミニレクチャーを実施しました。2016年度は8月から9月の繁忙期に計13回実施し、121名の方にご参加いただきました。

レクチャーの内容は、知床の海の生き物に関することやヒグマの話、クワガタや羅臼昆布についてなど、バラエティー豊かな内容で実施しました。

▲職員によるミニレクチャー

羅臼研究支援センター 羅臼町/B3

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者を中心にのべ23名、300人泊の利用がありました。

▲羅臼研究支援センター

知床五湖園地

施設の管理と運営 斜里町/A4

開園期間中、知床五湖園地への給水設備の維持管理を行いました。開園前の4月上旬には、水源地から園地までの通水作業を行い、閉園時の11月中旬には停水作業を行いました。また、ヒグマに対する安全管理や駐車場でのオートキャンプ等の不適切な利用を防止するため、知床五湖園地の夜間閉鎖を実施しました。

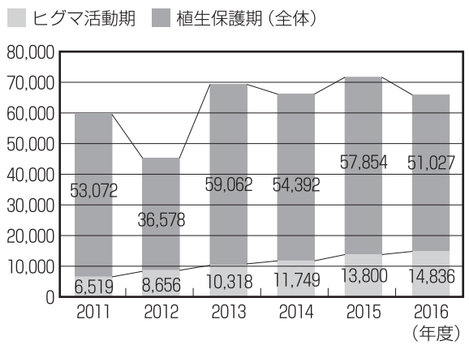
知床五湖利用調整地区の運営 環境省/C11, C12, C13 知床ガイド協議会/F3

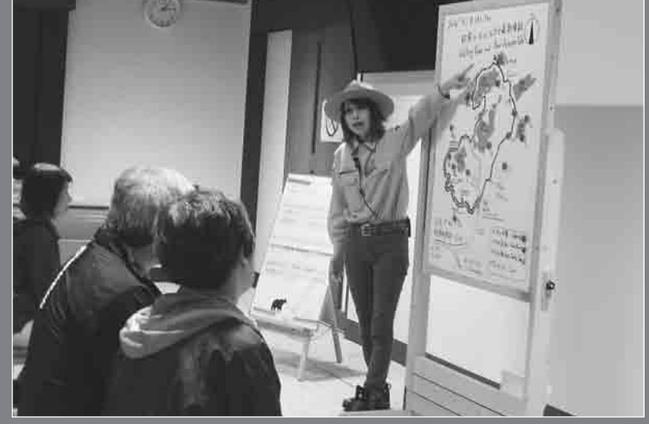
知床五湖利用調整地区の指定認定機関として4月から10月まで職員が常駐しました。また、ヒグマ活動期には、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者へのサービスを継続しています。

2011年から開始した知床五湖の利用調整地区制度は6年目を迎えました。新制度はヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先進的な取り組みとして注目を集めています。知床財団は知床五湖フィールドハウスでのレクチャーの実施や制度運営の要となる指定認定機関（環境大臣指定）として制度全体の運用を担っています。また、知床五湖の利用のあり方協議会など制度の設計や合意形成の場となる会議運営も行いました。

ヒグマ活動期の実績は好調で、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中1万人を超える来園者がガイドツアーに参加しており、知床五湖がエコツアーの発信地となりつつあります。通年の立ち入り認定者数は65,000名を超えており、8月には荒天による知床五湖園地閉鎖があったものの、大きな混乱はなく安定的な運用を行うことができました。

知床五湖利用調整地区の立入実績




▲知床五湖を散策するためのレクチャーの様子

▲知床五湖フィールドハウスで館内の展示を説明する職員

施設の管理・運営

知床五湖の魅力向上事業

知床五湖では、新たな利用システムを広く地域の皆さんに体験してもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を2016年度も継続して実施しました。ローカル割引キャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供しました。今年度は、前年度42%増となる166組436名の参加がありました。

遊歩道のコンディションや自然情報等のリアルタイム情報を収集し、発信しました。特に、外国人対応として、展示物や案内物の英語表記やピクトグラム化を強化しました。

▲来訪者への案内を行う職員

ルサフィールドハウス

施設の管理と運営 環境省/C14, C15

2016年度のルサフィールドハウスの開館期間は5月から10月の6ヶ月間でした。来館者数は6,184人で、前年度比は84%でした。2016年度は8月の豪雨による災害の影響もあり、道路閉鎖が続いたことが大きな要因であると考えられます。また、これまでどおり知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、ルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーしました。

ビジター向けインフォメーション・環境教育等業務

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどについてお話しするとともに、フィールドハウスの2階から観察できる鯨類のことなどを解説しました。

▲ルサフィールドハウスでのレクチャー

▲情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」

▲スカイバスの車内

▲ルサカフェ

知床国立公園利用の適正化

カムイワッカ地区の運営 知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会/F4

2016年度もカムイワッカ地区はマイカー規制期間と自由通行期間が交互に切り替わる利用体制となり、現地での混乱を避けるため関係者間の調整が必要でした。同地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、運営の円滑化のためバス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。

リニューアルした知床自然センターにおいては、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、インフォメーション業務と一体的なチケット販売体制を構築しました。

▲カムイワッカ湯の沢

知床エコツーリズム総合推進事業 北海道/E1

知床財団はよりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。適正利用・エコツーリズム検討会議（世界遺産科学委員会、適正利用・エコツーリズムWGと地域連絡会議、適正利用・エコツーリズム部会の合同会議）では、知床エコツーリズム戦略の本格的な運用が始まっています。地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、知床財団もこうした取り組みに参画しています。

知床財団では、前年度に同会議で提案した「外国人旅行者向け情報発信の強化」について、検討部会を立ち上げ事務局を担いました。また、現地到着後の外国人旅行者を対象に、斜里・羅臼両町の観光コンテンツをつなぐことをコンセプトとした情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」を構築し、運用しました。このサイトは国立公園内の施設、観光船、遊歩道などの開閉、運用等の情報が一覧できるポータルページで、観光案内施設や地域ガイド等の間で試験的な運用が行われました。

フレペの滝遊歩道においては、散策時のセルフガイドを携帯端末で提供するシステムの開発を行いました。近年、普及が進むスマートフォンを用いることで、豊富な自然情報を写真や音声などのマルチメディアを用いて多言語で提供することが可能になりました。

2015年度から2年目となる「知床スカイバス」事業においては、実行委員として事業に参画し、ホロベツ地区の利活用に繋がるバス運行のあり方を提案しました。知床自然センターではチケット販売も行い、スカイバス事業では41日間で7,782名の乗車がありました。

ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

2015年度に引き続き、ルサフィールドハウスの知名度向上と幅広い層の方々に利用していただくことを目的として、「ルサカフェ」を実施しました。2016年度は9月28日から10月3日の計6日間で、215名の方にカフェを利用していただきました。2年目となったルサカフェは、前年度のリピーターの利用者も多く見受けられました。飲み物と一緒に提供するお菓子や軽食も利用者の方々の意見を取り入れて工夫しました。

公益事業

森林再生系事業

▲防鹿柵外に移植した苗木とエゾシカ

▲防鹿柵の補修

しれとこ100平方メートル運動

しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務 斜里町/A5,A6

斜里町主催「しれとこ100平方メートル運動」は開始から39年、「100平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みを始め19年が経過しました。2018度には本格的な森づくりの開始から節目の20年を迎えることから、次期20年間の目標立案に向けてより具体的な検討を行う段階となっています。大きな節目を迎えるこの取り組みの中で、知床財団は森づくりや運動地公開など「しれとこ100平方メートル運動」に関わる現地業務を担っています。

森林再生作業

春から秋にかけて苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高6メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。作業は全てたくさんのボランティアの皆様にお手伝いいただきながら進めました。

また、2016年度は次の20年間に向け、新たな試みにも着手しました。広葉樹の苗木を植栽する場合は、これまでエゾシカ対策として防鹿柵の中に植えるか樹皮保護ネットを巻きつけるなどしていました。しかし近年、運動地の一部ではエゾシカ捕獲の効果によるエゾシカの生息密度の低下が見受けられ始めています。そこで、防鹿柵や樹皮保護ネットを用いない森づくりの手法検討の一環として、5月に中型（樹高3～6メートル程度）の苗木20本を防鹿柵外へ樹皮保護ネットを巻かずに植栽しました。

その後の経過観察の結果、夏場にかけて6本の苗木がエゾシカの樹皮剥ぎを受けたことを確認しました。樹皮剥ぎの程度は直ちに枯死につながるほどではありませんでしたが、エゾシカの採食の圧力は依然として高い状況であることがわかりました。引き続き、試験的な柵外への植栽と経過観察を継続し、エゾシカの動向を把握していくとともに、新たな手法の検討も進めていきます。

▲大型苗の移植

しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第37回知床自然教室」（7月30日から8月5日、参加者40名）、「第20回しれとこ森の集い（植樹祭）」（10月16日、参加者81名）、「第20回森づくりワークキャンプ」（10月30日から11月4日、参加者9名）の企画・運営を行いました。

「森の集い（植樹祭）」では、防鹿柵外に苗畑で育成したトドマツの苗木（191本）を植え付けました。一昨年の「森の集い（植樹祭）」までは広葉樹を防鹿柵内に植樹していましたが、各柵内への植栽が完了したことから、前年度より柵の外にシカの嗜好性の低い針葉樹（トドマツ）の苗木を用いた植樹を行っています。

▲知床自然教室の食事風景

運動地公開

知床自然センターに隣接する運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の開設運営を行いました。春から秋の開設期間（5月から11月末）にこのコースを訪れた利用者数は、1935名（前年度2382名）となりました。また、冬期（1月から3月）に開設した二つのコースの利用者数は、合わせて356名（前年度347名）でした。このほか、2017年度に迎える「しれとこ100平方メートル運動」の40周年に合わせ、「しれとこ森づくりの道」の新規コース開設に向けた検討にも着手しました。

▲ワークキャンプでの大型苗の移植

▲しれとこ森通信ミニ

▲PR 動画

しれとこ100平方メートル運動

森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。今年度は、次期20年間の目標策定に向け重要な年になることから、特例として2回の会議を開催しました。

知床財団では、最新の林相図を作成し20年前との森林構造の比較を行ったほか、未立木地の森林化を目的としたササ地掻き起し作業の先進事例の視察を行い、それらの結果をもとに、斜里町と検討を重ねながら次期20年間の方針や目標を記載した骨子案を作成しました。

2回の会議では現状の作業状況の現場確認をしたほか、骨子案をもとに次の20年間の森づくりについて議論を行いました。

▲森林再生専門委員会による現地視察

運動地広報企画

「しれとこ100平方メートル運動」の広報誌「しれとこの森通信No.19」（A4判カラー12ページ）の企画・編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ「しれとこの森通信ミニ」（季刊）を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っています。

運動ホームページでは日々の作業状況を発信するとともに、イベントやボランティア募集も行っています。また2016年度は、「100平方メートル運動の森・トラスト」のPR動画3本を作成しホームページに掲載するなど、紙媒体だけではなくインターネットを活用した情報発信にも努めました。

▲しれとこの森通信

しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

本業務は、斜里町主催「100平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動地を含めた運動の普及と推進に、現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、春から夏にかけての週3回、自然復元係の職員が館内に常駐し、「スタッフトーク」などのレクチャーを実施したほか、来館者とのやり取りなどを通じて運動のPRを行いました。また職員研修業務の一環として、春から秋の計6回、知床財団職員が実際に運動地を歩く機会をつくりました。

教育機関を対象に行った取り組みとして、知床ウトロ学校や斜里小学校、斜里高校の受け入れを行い、教室での授業だけではなく実際に運動地を歩き、「しれとこ100平方メートル運動」の取り組みや開拓の歴史について紹介しました。

4泊5日の合宿形式で行われるイベント「知床森づくりの日」（5月）では、9名の参加者があり、森づくりのお手伝いをしていただきました。

そのほか、前年度までダイキン工業株式会社寄附事業として実施していた「岩尾別川再生事業」は、予定の5年間をもって終了しましたが、基礎的な調査や生物相復元に関わる研究などは、知床財団の独自事業として引き続き知床博物館や東京農業大学など外部機関との連携を図りながら継続して実施しています。

▲地元の小学生にしれとこ 100 平方メートル運動の説明をする職員

第2期ダイキン工業株式会社寄附事業

▲ダイキン工業社員ボランティアの参加者

2011年7月にダイキン工業株式会社、斜里町、羅臼町、知床財団の四者が協定を結び、2016年3月までの約5年間、知床世界自然遺産地域とその周辺地域において自然環境保全事業を実施してまいりました。そして2016年1月に再度四者協定を結び、引き続きダイキン工業株式会社様から多大なるご支援をいただけることになりました。

2016年4月から向こう8年間は第2期ダイキン工業株式会社寄附事業として、開拓以前の森である針広混交林の復元、地元の子供たちを対象とした環境教育活動の支援、知床来訪者への森づくりに関する普及啓発、そしてヒグマと人の共存を支援する活動などを実施していく予定です。

なお、2016年度は6月に11名、9月に同じく11名のダイキン工業社員ボランティアの皆様が知床を訪れ、それぞれ3泊4日の日程で森づくり作業や人の生活圏へのヒグマの侵入を防ぐ電気柵の設置作業などのお手伝いをしていただきました。

多様性に富むしれとこの森を復元する事業

100平方メートル運動の森・トラスト及びその関連事業

広葉樹や針葉樹の育成と植樹、森の復元を進める上で障壁となっているエゾシカの対策として、過去に設置した防鹿柵や樹皮保護ネットの補修作業を行いました。特に2003年に設置した防鹿柵を支えている木柱の腐食が進んでいることから、2〜3ヶ年計画で順次鉄柱に打ち替えていく予定です。2016年度は最終的に61本の鉄柱を打ち込み、既存のフェンスに取り付けました。また、運動地内ではエゾシカの樹皮剥ぎを防ぐために、約800本の木に専用のネットを巻いて保護していますが、そのうちネットの巻き直しが必要なものについて補修作業を行いました。

▲樹皮保護ネットの補修

100平方メートル運動地内を走る大小22路線の作業道のほとんどは、開拓当時の道をそのまま使用しています。そのため、随時水はけが悪い場所や陥没した路盤の補修を行っています。2016年度は、3路線の作業道にて路面状況改善のための砂利入れなどを行いました。

10月には、今後の森づくりの目標や作業計画を検討するため、先進的な事例収集を目的に北海道大学雨龍研究林を訪問し、ササ地の掻き起しなど参考となる取り組みの視察を行いました。

冬期は運動地各地の巡視を行った他、過去に植栽したアカエゾマツ造林地にて今後の作業準備として現地測量や支障となる枝の除去などを行いました。

▲防鹿柵の鉄柱の付け替え作業

▲ダイキン工業社員ボランティアによる樹皮保護ネットの回収作業

▲刈り払い前の住宅地付近のフキ

▲フキの刈り払い後

世界遺産の価値を守り、伝える事業

次世代を担う子供たちを対象とした環境教育活動への支援活動

地元の小中学校や高等学校、そして大学生の現地体験学習等を積極的に受け入れ、知床の自然の価値や「しれとこ100平方メートル運動」の理解と普及に努めました。2016年度は計6回、のべ287名の皆様に参加、聴講していただきました。

知床自然愛護少年団と知床キッズの活動費の一部を本事業の寄附金より支援しました。また、子供用のスノーシューを40台、引率者用のスノーシューを10台購入し、地域の子供たちの環境教育活動を対象としたスノーシューの貸出業務を始めました。2016年度は2件の貸し出しがありました。

▲知床自然愛護少年団と知床キッズの共同事業「知床岬クリーン作戦」

知床来訪者へ自然保全や森林復元の取り組みを伝える活動

知床自然センター館内のレクチャースペースで来館者の方に「しれとこ100平方メートル運動」の歴史や活動を伝える取り組みを行いました。2016年度は計101回のレクチャーを行い、738名の皆様に聴講していただきました。

▲知床自然センター館内での森づくりレクチャー

ヒグマと人の共存を手助けする活動

羅臼町で実施している本事業は、2011～2015年度の5年間に実施された第1期に続いて第2期目を迎えました。第1期では、人が暮らしを営むエリアにヒグマが出てこないように、町内に電気柵を設置しました。第2期の初年度である2016年度は、第1期に設置した電気柵の維持管理に加え、ヒグマが身を隠し、餌場や移動の場として好んで利用する住宅地近くの背丈の高いフキやイタドリ、クマイザサの藪を町内各所で刈り払い、ヒグマが出没しにくい環境を作りました。

▲ダイキン工業社員ボランティアの方との電気柵設置

収益事業

▲知床自然センターの知床財団ショップ

▲オリジナル商品「エコ軍手・エコ手袋」

販売・有償貸し出し業務

直営店の運営

知床自然センター及び羅臼ビジターセンターでは、知床財団の直営店舗として知床の自然に関する書籍、散策や登山時に役立つアウトドアグッズ、知床財団の活動普及のためのオリジナルグッズなどを販売しました。また、電話やファックス、電子メール等で注文を受ける通信販売も運営し、2016年度の売上はあわせて17,214,902円でした。

オリジナル商品の開発

知床財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。2016年度はオリジナル軍手のデザインと素材を一新したほか、今治タオルを素材としたオリジナルガーゼハンカチを製作し、販売を開始しました。また、株式会社フェニックス様とのコラボレーション商品、オリジナルTシャツは今年度6年目の製作となりました。株式会社フェニックス様からはTシャツの売上にあわせて173,244円のご寄附をいただきました、

オンラインショップの運営

オンラインショップ「コムヌプリ」の管理・運営を行い、2016年度は983,844円の売上がありました。このうちコムヌプリでの知床財団の個人賛助会員の入会は、82件（新規23件、更新58件、終身1件）ありました。

▲フェニックス様とのコラボレーション T シャツ

▲今治ガーゼハンカチ

レンタルサービス

知床自然センター、羅臼ビジターセンター及びルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有償貸し出しを行いました。2016年度は、ヒグマ撃退スプレー467件、フードコンテナ19件を貸し出しました。貸し出しの際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてスライド画像を用いてレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有償貸し出しを実施し、長靴3,891件、双眼鏡113件の利用がありました。また冬季において、入館促進および来館者の満足度向上のために実施しているスノーシューは、1,146件の貸し出しがありました。

羅臼ビジターセンターにおける長靴の有償貸し出し業務では、49件の利用がありました。

研修・講演・視察対応業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2016度は2,281,400円の収入がありました。

▲酪農学園大学の実習の様子

▲知床の動物に関する子供向け授業の様子

収益事業

2016年度研修・講演・視察対応等受け入れ対応実績

	内容	受け入れ先
実習	知床（羅臼）のエコツーリズムに関する学習	北見工業大学 工学部 社会環境工学科3年生
	知床実習	札幌科学技術専門学校
	生物多様性保全のためのGIS・リモートセンシングを利用した情報システムおよび住民参加型保全	JICA （特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所）
	知床における森林再生の取り組みの現状と課題	東京農業大学 生物産業学部 生物産業学科 植物資源保全学研究室
	知床の紹介	基督教独立学園高校
	世界遺産地域内における行動について 岩尾別川河畔林の再生について	JICA
	知床世界自然遺産と100平方メートル運動	東京農業大学植物バイテク研究室
	野生動物学演習	北海道大学獣医学部
	自然保護と利用のあり方について	網走市立中央小学校
	知床フィールド実習	酪農学園大学農食環境学群
	世界遺産マネジメントと環境	JICA （公益財団法人はまなす財団）
	知床フィールド実習	北海道大学獣医学部
	知床エクスカーション～知床財団の仕事について	京都大学野生動物研究センター
	フレペの滝遊歩道散策	斜網地区子ども会育成者連絡協議会
	熊越えの滝案内	羅臼町立春松小学校
	オープンキャンパスエクスカーション	知床ネイチャーキャンパス2016 （公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団）
	しれとこ100平方メートル運動の紹介	駿河台大学　現代文化学部
	ヒグマ対策	定山渓自然の村 （公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員）
視察	知床財団及びシカ害等の課題について	富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
	世界自然遺産登録に向けた先進地ヒアリング	沖縄県竹富町観光協会
	知床五湖の利用と保護の両立の取り組みについて	鹿児島県議会産業経済委員会
	トランクキットについて	湧別町立湧別中学校
	羅臼ビジターセンターの運営状況について	白老町教育委員会
講演・特別講師・客員教授・アドバイザー	羅臼の身近な鳥類について	羅臼町立羅臼中学校（2年生）
	知床におけるヒグマの扱いについて	羅臼町連合町内会
	知床の自然と観光について	北見ことぶき大学
	環境問題及び世界自然遺産の取り組みについて	北方四島在住ロシア人訪問団の「住民交流会」 （羅臼町役場企画振興課）
	知床の自然と保全のために私たちができること	西武学園文理小学校4年生
	世界遺産の成り立ち、エゾシカ、ヒグマ等の自然保護や人と動物の共生について	岡山県立岡山城東高等学校
	知床自然概論 （しれとこ100平方メートル運動・シカ）座学	北海道立斜里高等学校（3年生）
	知床におけるヒグマの扱いについて	羅臼漁業協同組合こんぶ部会
	エゾシカの生態および捕獲から加工まで	中標津町立計根別学園
	知床の自然保全と利用について	アジア学生交流環境フォーラム

	内容	受け入れ先
講演・特別講師・客員教授・アドバイザー	総合的な学習の時間（職業講演会）	斜里町立斜里中学校（2年生）
	知床自然概論（しれとこ100平方メートル運動・シカ）	北海道立斜里高等学校（3年生）
	羅臼ビジターセンターにおけるボランティアレンジャーについて	株式会社 矢野経済研究所
	ボーダーで暮らす	JIBSN 境界地域研究ネットワーク 講演会
	知床自然センターの活動について	斜里町教育委員会　生きがい大学
	知床財団の活動について	斜里ロータリークラブ
	学芸員養成課程の授業の実施	東京農業大学 生物産業学部学術情報課程博物館情報学研究室
	国土交通省インバウンド受入について	株式会社 JTB総合研究所
	しれとこの動物	特定非営利法人かかわり教室
	北海道の自然と観光について	CISEネットワーク運営委員会
	自然環境等インベントリ調査について	株式会社建設環境研究所
	クマの分布状況の聞き取り調査	株式会社 野生動物保護管理事務所
	釧路湿原国立公園エゾシカ捕獲手法検討調査業務	JICA （特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所）
	風力発電設置危険地ハザードマップ作成のための猛禽類の渡りルートに関する聞き取り	いであ株式会社
	自然との調和、知床世界自然遺産	北海道科学大学
	ヒグマ特別展講演会	斜里町立知床博物館特別展講演会

財団法人管理運営業務

財団法人管理運営業務

理事会は、第1回理事会（5月）を開催し、「平成27年度　事業報告及び、決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、役員（理事・監事）の改選に伴う名簿の提出、特定費用準備資金の積み立て、賛助会員入会承認」について審議しました。第2回理事会（6月）は、役員改選後、初めての理事会として「代表理事（理事長、副理事長）の選定」を行いました。第3回理事会（10月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第4回理事会（12月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第5回理事会（3月）は、「平成27年度　決算書の一部修正、評議員等の報酬・費用弁償に関する規程の一部改正、臨時評議員会の招集、就業規則の一部改正、期限付雇用職員就業規程の一部改正、職員給与規程の一部改正、平成29年度　事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会（6月）は、「平成27年度 決算報告及び、会計監査報告、任期満了に伴う役員（理事・監事）の改選」について審議しました。決議の省略による臨時評議員会（3月）は、「平成27年度決算書の一部修正、評議員等の報酬・費用弁償に関する規程の一部改正」について審議しました。

また、年2回以上の開催が義務づけられている代表理事と事務局の運営会議を9月と3月に開催しました。

役　員

理事長	村田良介
副理事長	佐々木泰幹
理　事	鈴木完也
〃	蠣崎　優
〃	工藤勝利
〃	塩川裕子
〃	八幡雅人
監　事	中川　元
〃	髙嶋　淳
評議員長	高橋一三
評議員	吉野弘志
〃	遠山和雄
〃	金澤裕司
〃	吉野英治
〃	小川雅勝
〃	任田　勉

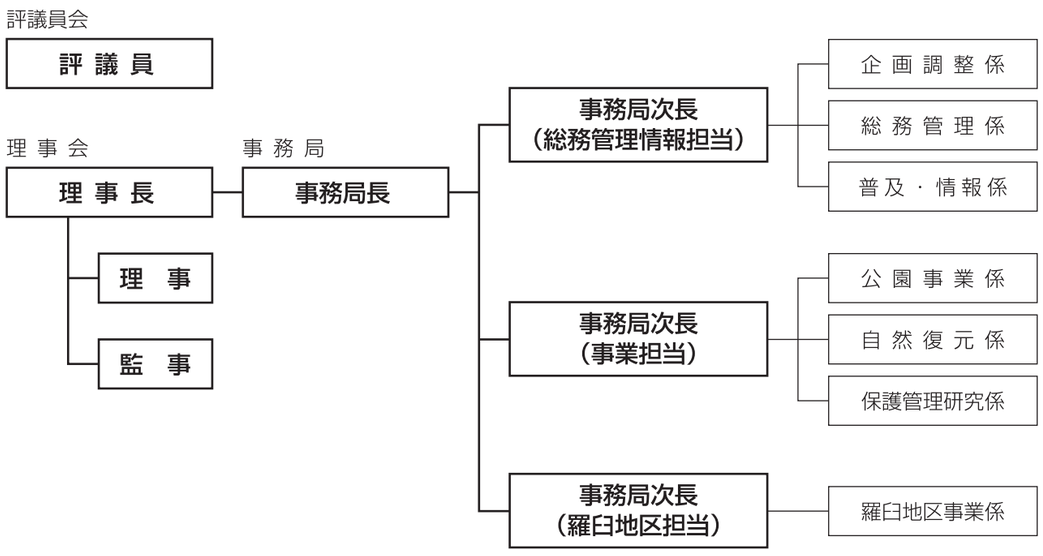
受託事業一覧

発注元	本文対象No.	事業名
斜里町	A 1	ヒグマ管理対策業務
	A 2	自然環境保護管理対策業務
	A 3	知床自然センター他指定管理業務
	A 4	知床五湖水道施設等管理業務
	A 5	しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
	A 6	100平方メートル運動の森・トラスト広告宣伝業務
羅臼町	B 1	ヒグマ管理対策業務
	B 2	野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
	B 3	羅臼ビジターセンター運営業務
環境省	C 1	知床世界自然遺産地域における住民向け普及啓発講座開催補助業務
	C 2	知床半島ヒグマ保護管理方針に基づくゾーニング管理等推進業務
	C 3	知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務
	C 4	知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務
	C 5	知床生態系維持回復事業　エゾシカ航空カウント調査業務
	C 6	知床生態系維持回復事業　ルシャ地区エゾシカ季節移動等調査業務
	C 7	知床世界自然遺産地域科学委員会運営業務
	C 8	知床半島ヒグマ保護管理方針検討業務
	C 9	日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進等業務
	C10	羅臼ビジターセンター維持管理等業務
	C11	知床五湖指定認定機関業務
	C12	知床国立公園知床五湖等利用適正化検討業務
	C13	知床五湖フィールドハウス等運営委託業務
	C14	知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
	C15	知床国立公園の利用推進に係る印刷物作成業務
林野庁	D 1	斜里町内国有林エゾシカ捕獲等事業（モバイルカリング等）
	D 2	斜里町内国有林エゾシカ捕獲等事業（囲いワナ等）
北海道	E 1	知床エコツーリズムのための自然情報提供システム構築事業
その他	F 1	知床生態系維持回復事業エゾシカ食害状況評価に関する植生調査事業（㈱さっぽろ自然調査館の現地調査の一部を補助）
	F 2	日本クマネットワーク出版物の発行・販売業務
	F 3	知床五湖当日受付カウンター運営業務
	F 4	カムイワッカ地区における自動車利用適正化対策の実施に伴う現地管理連絡調整等業務

組織概要

名　　称	公益財団法人　知床財団（2011年4月に名称変更　旧名称　財団法人　知床財団）
設　　立	昭和63年（1988年）9月23日
設 立 者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所 在 地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 知床自然センター
目　　的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発等の事業を行い、もって広く自然保護の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事　　業	(1)　野生動植物の調査・研究 (2)　自然保護の普及啓発 (3)　自然保護に関する諸団体との提携 (4)　自然環境の保全管理及び公園施設等の管理運営受託業務 (5)　その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職　　員	35名

2017年3月末



知床の価値ある自然を私たちと一緒に守りませんか

http://www.shiretoko.or.jp/supporter/supporter.htm

「どなたでも知床の自然保護活動に貢献できます！」

知床の自然を未来へ遺していくためには、皆様の継続的な支援が不可欠です。
皆様が知床の自然を思う気持ちを私たちに託して下さい。

知床財団の賛助会員制度

会員になると、知床自然情報誌SEEDSや刊行物を定期的にお届けする他、知床自然センターの映像展示館の入館料免除など、各種特典があります。

個人年会員	5,000円/年	法人年会員	20,000円/年
個人終身会員	100,000円/終身	法人特別年会員	100,000円/年
寄付	おいくらからでも受け付けています。		

賛助会員の入会・更新方法

知床財団 賛助会入会・寄附　http://www.shiretoko.or.jp/supporter/kojin/

NEW	①自動振替 〈クレジットカード決済〉	ホームページから直接お申し込みできます。 初回の決済日を行った日から1年ごとに決済させていただきます。
NEW	②自動振替 〈銀行口座振替〉	ホームページにて「口座振替依頼書」にご入力後、依頼書を印刷し、記名・捺印の上、下記の宛先までご郵送ください。 【送付先】〒099-4356 斜里郡斜里町字岩宇別531　公益財団法人 知床財団　総務管理係
NEW	③Loppi から お申し込み	全国のローソン・ミニストップに設置されているLoppi（店頭端末）から24時間365日お申し込みいただけます。
	④郵便局から お申し込み	【口座番号】02750-2-37694 【加入者名】公益財団法人 知床財団
	⑤知床の現地で お申し込み	知床自然センター、羅臼ビジターセンターのカウンターにて受け付けております。
	⑥ネットショップから お申し込み	知床財団ネットショップ「コムヌプリ」にてクレジットカードでご入金いただくことができます。 ※自動振替にはなりません。 コムヌプリ　http://shop.shiretoko.or.jp/